

「自ら求め、学ぶ生徒の育成」

—対話を通じた授業づくり・構造化の追求—

I 主題設定の理由

新学習指導要領の全面実施を来年度にひかえ、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の3つの視点で学びの質を高める授業を意識してきた。特に、対話(伝えること)をすることで、自分の考えをまとめたり、新たな考えを発見することができ、考えを構造化することで、理解を深め、知識が定着すると考えている。また、説明をすることにより思考が整理されると考える。その前提には「主体的な学び」があり、生徒はもとより、われわれ教師集団が自ら学び、対話に適した教材を見極めることや本年度は「思考ツール」を活用することで、「主体的・対話的で深い学び」の実現へと繋がると考え研究を実施してきた。

特に本年度は以下の3項目を重点内容として研究を行った。

①つけさせたい力、ねらいを明確化する

知識を身につけたあと、応用的な内容に発展していく中で、子どもたちにどのような力をつけさせたいかを考え、可視化することで、ねらいを明確化させる。

②教科横断的な考えを持つ

教科の特質に応じた授業をすることが基にあり、その上で、他教科の授業からどうつながられるかを考えるために、お互いの授業を見合う。

③新学習指導要領実施に向けた取り組み

新学習指導要領の全面実施を前に、各教科でどのように意識をして授業を構成していくのか学べる機会を設ける。また、NIEの実践指定校であるため、新学習指導要領で求められる資質能力を育成するために新聞をどのように活用できるのか研究していく。

II 研究の具体的な内容と方法

1 甲州市「確かな学力」育成プロジェクトとタイアップした教育研究

(1)家庭学習の充実

松中ノートの取り組みを充実させるために、右側のページについて個に応じた学習ができるような工夫を行う。個人学習でできる生徒もいるが、自分で行うことが難しい生徒、さらに発展的な学習をしていきたい生徒に対して自由度を高めてきた。

(2)ハイパーQ・Uの実施と結果分析

学級・集団づくりの質の向上のため、ハイパーQ・Uを実施し、学年ブロック研究部会に分かれて、K13法による結果分析を行った。

(3)授業の構造化への追求

校内研および甲州市のプロジェクトの一環として、授業のはじめに「めあて」を示してきた。また、生徒に身につけさせたい力を明確にさせるために、ピクトグラムの活用を行ってきた。本年度は、これらに加え「思考ツール」の活用をす

ることで、学び合いを深め、授業の構造化をさらに深めていけるようにしてきた。

2 本校独自の教育研究

(1)新学習指導要領実施に向けた研究

新学習指導要領の全面実施を前に、各教科でどのように意識をして授業を構成していくのかについて学べる機会を設ける。さらに、NIEの実践指定校であることをいかし、新学習指導要領で求められる資質・能力を育成するために新聞がどのように活用できるのかを研究する機会を設けた。

(2) お互いの授業を見合う

小規模校で、各教科1人で行っているため、教職員一人ひとりがさらなる授業力の向上を目指すためには、教科横断的な授業の視点を持つことが大切である。今年度は、授業を直接見ることができず、授業ポイントの情報交換を行った。

(3) 学びの基盤づくり

授業規律の継続指導として「話を聞く」「声を出す」「時間を守る」「あいさつ・返事をする」等の指導を継続して行ってきた。また、本年度は学びの集会は実施することができなかったが、新聞を活用していくことによって得られる力等について新聞記者の方を講師に招き学習会を行った。

Ⅲ 成果と課題

1 成果

今年度は新学習指導要領実施を前に「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の3つの視点で学びの質を高める授業を意識してきた。特に今年度はコロナ禍の中で学びを深める手段として「思考ツール」の活用を力を入れてきた。思考ツールを活用することで自分の考えが整理され、可視化されることで学びが深まる場面が見られた。導入等で思考ツールを活用することで「主体的な学び」につながる場面もあった。

また、本年度は新学習指導要領での評価についての学習会も実施をした。研究授業等でもそれらに合わせて評価規準を設定し、学習を深めることができた。

2 課題

甲州市「確かな学力」育成プロジェクトの中でも取り組まれている「思考ツール」の活用をはかり授業の中でも一定の効果があった。しかし、活用することが主体の授業になってしまえば生徒の深い学びにつながらない。新学習指導要領の実施にともない指導と評価を意識する中で、生徒にとって深い学びにつながるように指導方法についてさらなる研究をしていく必要がある。

Ⅳ 成果物

1 一人一実践

2 授業評価シート

3 松中ノート（家庭学習ノート）

4 新聞感想文コンクール等における各種感想文 （研究主任 猪股 敬）